

日本音楽教育学会ニュースレター 第80号

目次

1 第24期に向けてのご挨拶.....	今川 恭子	2
2 日本音楽教育学会第51回大会のご案内		
1. 第51回大会の開催方法の変更について.....	今川 恭子	3
2. プロジェクト研究のご案内.....	石上 則子・佐野 靖	3
3. オンライン開催について.....	齊藤 忠彦	3
3 学会からのお知らせ		
1. 2020・2021（令和2・3）年度 役員一覧.....		4
2. 2020・2021（令和2・3）年度 委員一覧.....		4
4 委員会からのお知らせ		
1. 編集委員会より.....	小川 容子	5
2. 第16回音楽教育ゼミナール「英語で研究を海外に発信しよう！」について	今田 匡彦	6
3. APSMER2021 TOKYO のご案内.....	水戸 博道	6
4. 次の10年に向けて—50年の歩み編集に携わって—.....	山本由紀子	6
5 音楽教育の窓		
（連載）音楽・教育・学校（23） 内なる声と外の社会.....	北山 敦康	7
6 会員の声		
中国四国地区例会を終えて.....	住田新太郎	8
7 会員の新刊・近刊等紹介.....		9
8 報告		
1. 2020年度 日本音楽教育学会 第1回常任理事会		10
2. 2020年度 日本音楽教育学会 第1回理事会		11
9 事務局より		14

[編集後記]

1 第24期に向けてのご挨拶

第24期日本音楽教育学会会長 今川 恭子

昨年の選挙で再任して戴き、会長として2期目を務めることになりました。ご支持に改めて御礼申し上げます。今期の歩みは、学会設立51年目からのスタートとなります。音楽教育の変わらぬ本質と新しい時代への対応とを視野に入れながらさらなる発展を遂げるべく、本多副会長、木村事務局長はじめ役員・委員一同と共に、すべての会員の皆様にお力添えいただきながら精一杯務めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

第24期は、社会全体が新型コロナウイルス感染症拡大に覆われる中での船出となりました。収束の見通しが不透明な中で、この事態が社会の変革の契機になるのだとしたら、どのような状況にせよ私たちは前を向いて行かねばなりません。「音楽の学びと教え」の「これから」を考えるという、私たちに課せられた課題は重大であると考えます。今日の前にある問題に対処することももちろん必要ですし、今だからこそその本質を見据えた議論の場を確保することも大事にしたいと思います。

「人と人との関わり合うこと」そのものがリスクだと言われるようになってしまった今、「音楽の学びと教え」をめぐるさまざまなことが起こっています。会員の皆様はそれぞれの立場で、さまざまな思いをもってそれらを見つめておられることでしょう。「不要不急」と言われて真っ先に閉ざされてしまった対面での演奏活動や音楽教育の場は、枚挙にいとまがありません。感染拡大を防ぐためには致し方ないことなのでしょう。その一方で、外出制限された人々の歌声が続々とバルコニーから聞こえてきたという海外のニュースや、オンラインでの演奏配信、遠隔合奏や遠隔合唱をやろうという苦心と工夫、オンラインでのワークショップや音楽遊びの提供例も見られます。人々は、共に音楽をせずにはいられないのではないのでしょうか。人と人との響き合うことの意味を、研究と実践の両面から深く探究するべき時なのかもしれません。

さて、前期の課題としてあげたのは、「多様性を尊重した研究と実践およびその交流の推進」、「学会の社会的役割を自覚した活動の充実」、「学際的研究の推進」の3つでした。この振り返りはニューズレター前号に書かせていただきました。いずれも一定の成果をあげつつも努力の継続が必要であり、今期もこれらの課題には継続して取り組んでいきたいと考えます。加えて組織・運営面においては、持続可能な学会としての体制固めを推進いたします。具体的には、会員データベースの引き続きの整備、電子投稿の実現、広報のWeb化などです。さらに、前期将来構想ワーキンググループが下地を作ってくださった「あらゆる世代に活躍していただく」ための制度改革も、進めていきたいと考えています。最後にもうひとつ、国際化はこの新型コロナウイルス危機によって、非常に難しい環境に置かれています。APSMER開催やKMESとの交流の継続など、国際交流委員会の皆様のお力を戴きながら、グローバルな研究交流が後退することのないように取り組んでまいります。

学会は、音楽教育に様々な立場で関わる方々、音楽教育に関心をおもちの方々お一人お一人の力によって運営されています。皆様と力を合わせて、よりよい音楽教育の未来のために力を尽くしていきます。皆様のご協力を、心よりお願い申し上げます。

2 日本音楽教育学会第51回大会のご案内

1. 第51回大会の開催方法の変更について

日本音楽教育学会会長 今川 恭子

第51回大会は京都教育大学にて開催される予定のもと準備を進めてまいりましたが、新型コロナウイルス感染症の影響は予想以上に大きく、10月までの収束の見通しも不透明になってきました。この状況を踏まえ、京都大会実行委員会と学会本部事務局とは協議を重ね、さらに理事会で検討した結果、2020年10月17日(土)・18日(日)に開催予定であった第51回大会は常任理事を中心とした新たな実行委員会のもと、インターネット・ツールを用いたオンライン開催とすることと決定致しました(理事会報告を参照)。

10月の京都大会にご参加予定であった会員の皆様、京都開催に向けてご尽力くださった実行委員会の皆様には誠に申し訳ありません。京都でお目にかかれなことは大変残念ですが、見通しが困難な中で判断を先送りすると、開催そのものが危うくなり、会員の貴重な研究発表と交流の場が失われてしまう可能性があります。今回のやむをえない措置にご理解を賜りますよう、お願い申し上げます。

大会の詳細につきましては、随時ホームページなどでお知らせして参ります。前例のない事態への前例のない対応というチャレンジングな大会になります。会員の皆様お一人お一人の参加が、このチャレンジ成功の鍵であると思います。皆様の積極的なご参加をお待ち申し上げます。

2. プロジェクト研究のご案内

常任理事企画担当 石上 則子・佐野 靖

常任理事会企画のプロジェクト研究は、今年度より「小・中学校の連携を踏まえた音楽科授業の実践研究」に取り組みます。1年目となる今年度は「音楽づくり・創作」に焦点化し、新たな学びの場づくりを探究、提案します。具体的には、世代をこえた小・中学校音楽科教師の取組みを観察、記録、分析し、音楽科の学習指導及び授業研究の方法を問い直すとともに、新たな子ども・教師・教材(音楽)の関わり方、新たな学びの場づくりをデザインします。基調講演者として、学習科学や教育学、協調学習を専門とする益川弘如氏(聖心女子大学)を招聘しています。

3. オンライン開催について

第51回大会副実行委員長 齊藤 忠彦

第51回大会は、主にZoomを使用してのオンライン開催を予定しています。Zoomはオンライン会議等を行うために開発されたアプリで、インターネットに接続できる環境にあればパソコン、タブレット、スマートフォンを使って誰もが簡単に会議等に参加することができます。発表者はパワーポイント等の資料をそのまま提示することもできます(音声を含む動画再生も可能)。Zoomの使い方や接続方法等の詳細については、後日、学会ホームページ等でお知らせします。なお、プロジェクト研究や総会などの全体会については、Zoomに加えYouTubeによるライブ配信も予定しています。

【大会実行委員会】

委員長：今川 恭子

事務局長：木村 充子

企画担当：石上 則子・佐野 靖

オンライン担当：森下 孟・桐原 礼

副委員長：本多 佐保美・齊藤 忠彦

事務局長補佐：国府 華子

企画補佐他：市川 恵・萩原 史織

オンライン・ホームページ担当：塚原 健太・長山 弘

3 学会からのお知らせ

1. 2020・2021（令和2・3）年度 役員一覧

◎は地区担当理事

	氏 名 (所 属)	選出地区	担当
会 長	今川 恭子 (聖心女子大学)	関東	
副会長	本多 佐保美 (千葉大学)	関東	
事務局長	木村 充子 (桜美林大学)	関東	
常任理事 (9名)	石上 則子 (日本女子大学)	関東	企画
	小川 容子 (岡山大学)	中国・四国	編集 (常任理事会選出)
	小畑 千尋 (宮城教育大学)	東北 ◎	編集
	権藤 敦子 (広島大学)	中国・四国 ◎	広報
	齊藤 忠彦 (信州大学)	北陸 ◎	総務
	佐野 靖 (東京藝術大学)	関東	企画
	嶋田 由美 (学習院大学)	関東	総務
	杉江 淑子 (滋賀大学)	近畿	会計
	水戸 博道 (明治学院大学)	関東	国際交流
理 事 (9名)	加藤 富美子 (東京音楽大学)	関東	
	国府 華子 (愛知教育大学)	東海 ◎	会計
	笹野 恵理子 (立命館大学)	近畿 ◎	
	新山王 政和 (愛知教育大学)	東海	
	津田 正之 (国立音楽大学)	関東	編集 (理事会選出)
	中嶋 俊夫 (横浜国立大学)	関東 ◎	
	尾藤 弥生 (北海道教育大学)	北海道 ◎	
	日吉 武 (鹿児島大学)	九州 ◎	
	村尾 忠廣 (才能教育研究会)	近畿	
会計監事 (2名)	島崎 篤子 (文教大学)	寺田 貴雄 (北海道教育大学)	

2. 2020・2021（令和2・3）年度 委員一覧

◎は委員長 ○は副委員長

編集委員会 (13名)	磯田 三津子 ○今田 匡彦 ◎小川 容子 小畑 千尋 駒 久美子 古山 典子 杉田 政夫 高橋 範行 津田 正之 野本 由紀夫 藤井 康之 宮本 賢二郎 吉永 早苗
国際交流委員会 (5名)	伊原 小百合 今田 匡彦 金 奎道 近藤 真子 ◎水戸 博道
広報委員会 (5名)	菅 道子 ◎権藤 敦子 塚原 健太 早川 倫子 村上 康子
選挙管理委員会 (5名)	味府 美香 市川 恵 木下 和彦 ◎高木 夏奈子 ○山本 幸正
学会賞審査委員会 (7名)	今川 恭子 小川 容子 北山 敦康 権藤 敦子 杉江 淑子 本多 佐保美 水戸 博道
音楽文献目録委員会 (4名)	大田 美郁 三枝 まり 長野 麻子 福田 裕美
参 事	金崎 惣一 (J-STAGE) 高橋 憲人 (国際交流) 千葉 修平 (国際交流)

4 委員会からのお知らせ

1. 編集委員会より

編集委員長 小川 容子

本年4月から、編集委員会の顔ぶれが新しくなり、令和2年度の編集委員会が本格始動しました。新型コロナウイルス感染症対策特別措置法ならびに緊急事態宣言を受け、私たち編集委員会も Teams を使ったオンライン会議を実施しております。当面の間は、こうしたオンライン会議と ML 会議を併用する形になると思われます。また、電子投稿についても検討中です。どのようなシステムであれば投稿者の皆様が使いやすいのか、今年1年間試行錯誤をしながら、来年度からの正式導入を目指します。システムが出来上がり次第、試行期間や投稿方法等、改めてお知らせいたします。

氏名	研究分野	メッセージ
磯田 三津子	教育方法・教育臨床	教師と子どもによって創造される教育実践の意味を探究し、その良さと課題を多くの会員の方々と共有していきたいと考えています。
今田 匡彦	音楽教育学(哲学音楽論)・サウンドスケープ研究	審美と倫理の versus を解消する子どもたちから生起する共時的な音楽、原初のオンガクに立ち会いたいと考えています。
小川 容子	音楽知覚認知学・音楽教育学	教育現場の課題は、リサーチクエストに直結するはず。
小畑 千尋	歌唱に関する発達の研究	内的視点、外的視点から捉えた探究心溢れる教育臨床研究が、音楽教育学のさらなる発展に寄与するものと考えます。
駒 久美子	幼児音楽教育・音楽づくり	「楽しいから遊ぶ」「遊びたいから遊ぶ」そんな子どもの音楽表現を捉えた研究を大切にしたいです。
古山 典子	教師の価値観研究・教師教育	どのような授業を行うかは、教師自身の価値観に左右されると考えています。
杉田 政夫	音楽教育の歴史と哲学	主張やインパクトのある理論研究の投稿が増えることを楽しみにしております。
高橋 範行	音楽知覚認知・熟達化	新型コロナウイルスによって、音楽の力が改めて評価されているように感じます。社会における音楽教育の価値や意義について、会員の方々と共に考えていきたいと思っています。
津田 正之	戦後の音楽教育史・教育行政	歴史からの教訓は、音楽教育の展望する上で、とても重要なことです。
野本 由紀夫	鑑賞教育・音楽学(西洋音楽史)・合奏指導法(指揮法)・著作権教育	音楽文化の伝承と、創造の場としての教育現場の意義を共有していけたらと思います。
藤井 康之	音楽教育史	歴史は決して過去のものではなく、現在そして未来の道標を指し示してくれる重要なものだと思っています。
宮本 賢二朗	異文化間音楽教育・ドイツの音楽教育	音楽と芸術によって豊かな人間性が育つ教育を目指したいと思います。
吉永 早苗	乳幼児の音楽表現・保育者養成教育	子どもの音感受と音楽表現のありようをつぶさに捉えることの面白さを、会員の方々と共有したいです。

上の表には、編集委員全員の研究分野とそれぞれの思いを掲載いたしました。継続委員・新委員とも「キラッと光る」原稿を見つけて、1本でも多くの論文を掲載したいと張り切っております。『音楽教育学』も『音楽教育実践ジャーナル』も、どちらも本学会の顔です。私たちは、皆様の研究の併走者としてだけでなく、皆様と共に、有意義な知の生産者でありたいと願っております。両学会誌の充実と活性化に向け、編集委員一同、精一杯頑張ります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

2. 第16回音楽教育ゼミナール「英語で研究を海外に発信しよう！」について

第16回音楽教育ゼミナール実行委員長 今田 匡彦

第7回立教ゼミナール、第14回目白ゼミナール、第15回広尾ゼミナールで恒常的に行ってきた国際学会での英語による研究発表へのサポートを目的としたゼミナールを、2020年12月に明治学院大学にて開催予定です。3月29日に東京で若手会員を中心に第1回の対面会議をする予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となりました。今後、国際交流委員会、第13回APSMER大会実行委員会との連携の下、実行委員会の立ち上げ等、紙上及びonlineにて検討の予定ですが、ISME大会の中止（各コミッションのOnlineによる代替）、オリンピックの延期によるAPSMER東京の開催への影響を含め不確定要素があるかと思います。進捗状況については随時報告して行く予定です。

3. APSMER2021 TOKYOのご案内

APSMER2021 大会実行委員長 水戸 博道

すでにご案内しておりましたように、来年はAPSMER2021（Asia Pacific Symposium for Music Education Research）が開催される予定です。2021年8月3日～5日の日程で会場の確保もでき、実行委員会では準備を進めておりました。しかし、今年に入ってから新型コロナウイルスの急激な蔓延のためオリンピックが1年延期となり、来年のオリンピックの日程が予定していたAPSMER2021の日程とかぶってしまいました。このため、来夏の開催が難しくなり、実行委員会では新しい日程を調整中です。

私たちの喫緊の課題は1日も早い新型コロナウイルスの収束ですが、実行委員会ではAPSMERの来年度の開催を諦めてはいません。日程の変更案が決まりましたら皆様にご案内させていただきます。

4. 次の10年に向けて—50年の歩み編集に携わって—

『50年の歩み』編集委員 山本 由紀子

今回、50年の歩みの編集という貴重な作業に携わらせていただきました。資料の提供やチェックなどにご協力いただいた多くの先生方には、この場をお借りして重ねて御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

50年の歩みを編集して、また出来上がった歩みを眺めながら、改めて日本音楽教育学会の学術的関心の広さを感じました。様々な研究発表や論文、ゼミナールなどの変遷そのものが音楽教育研究の歴史として分析できるのではないのでしょうか。おそらく私だけではなく、多くの先生方も様々な視点からこの歩みをご覧になると思います。そのようなことを考えたとき、やはりこういった資料のweb上でのアーカイブ化が検討されても良いのではないかと感じました。編集後記でも言及されていましたが、大会・ワークショップ・ゼミナール・地区例会に関する、プログラム、報告書、写真などを収集する作業、そしてご担当の先生を遡る作業には、困難が伴いました。歩みとして形にしていけることが10年に一度だとしても、毎年行われる様々な学会の軌跡を確実に一元化し、保存しておく作業は急務であると考えます。また、web上ならば映像や音源も保存することができます。音楽という言葉や写真だけでは表現しきれない現象を取り扱う学会として、10年後を見据えて様々な可能性を広げていくことになるのではないのでしょうか。さらに蓄積した記録を内外に発信する方法を検討していけると、新しい価値が生まれてくるように思いました。

今社会は大きな変容を求められています。研究者として、一学会員としても過去から何を学び、この混乱の中から何を創っていけるのかを改めて考えていきたいと思っています。

5 音楽教育の窓

【連載】音楽・教育・学校 (23)

内なる声と外の社会

北山 敦康（静岡大学名誉教授）

2月に入ってから、新型コロナウイルス感染症に関する記事が報道で目立つようになった。多くの学校は卒業式の規模を縮小するなどして、なんとか卒業生を送り出すことができたものの、その後の感染拡大を懸念して入学式もままならず、政府の緊急事態宣言によって全国のほとんどの学校が休校措置に入っている。自治体によってはオンライン授業などの工夫で新学期の授業を行っているようだが、多くの地域ではゴールデンウィークが明けてもこの混乱が続いているだろう。この原稿を書いている4月末の状況では、これが読まれる頃になっても事態が収束しているとは考えにくい。

これまでに、大きな出来事がその後の社会構造や教育の方向性に影響を与えてきた。各教科の目標やその詳細な内容が示されている学習指導要領の変遷にもその痕跡を見ることができる。例えば、1957年にソビエト連邦が人類史上初の人工衛星の打ち上げに成功した、いわゆる「スプートニク・ショック」は、資本主義社会全体の科学技術教育の推進に拍車をかけたと言われている。1968年（小学校）と1969年（中学校）に告示された学習指導要領では、歌唱・器楽・創作・鑑賞の4領域に加えて「基礎」領域が示され、楽譜の読み書きなどの基礎的な音楽的知識の学習が重視された。現在の「大人の音楽教室」の需要を支えているのは、この時代の教育を受けた世代の人々である。

私の記憶に残っている当時の小・中学校の音楽の授業では、現在のように難しい合唱曲を歌うことよりも、たくさんの愛唱歌を身に付けることに力が入れていた。習い覚えた旋律を階名で歌っているうちに音楽と楽譜の関係が自然に理解でき、歌集を買って知らない曲をひとりで歌うことは、まるで自分の内なる声と対話するような感覚だった。音楽鑑賞の際にも、主題の旋律を階名唱してから聴くのが常だったので、その旋律が美しい和声のつながりをもって自分の心とシンクロした時にはとても嬉しかった。いつの段階で教えてもらったのかよく覚えていないが、授業で教えてもらった「一番右のシャープがシ、一番右のフラットがファ」という移動ト唱法の原理は、私たちの世代の人間が主体的に音楽を学び続けるための大きな支えとなったことは確かである。

しかし、当時の学校教育全体がどちらかといえば知育偏重だったということもあり、私が初めて中学校の教壇に立った1977年に告示された学習指導要領では、それまでの「基礎」領域がなくなって「音楽を愛好する心情」の育成を重視するようになった。ほどなく、教育界は「3年B組金八先生」に描かれたいわゆる「荒れた学校」の時代に入るが、それを立て直すのに大きな力を発揮したのが校内合唱コンクールだった。それ以後、生徒たちは読譜を通じて自分の内なる声を聴くのではなく、用意された範唱CDの音を聴き覚えて歌うだけになった。音楽のもてる力を世間に示したことの意義は大きい。それだけで音楽科の存在意義を今後も維持できるかどうかという疑問は払拭できない。

これは私の個人的な感想であるが、「基礎」領域の時代の音楽の授業では、音楽と一人一人の生徒の内なる心との関わり方に重きが置かれ、あまり外の社会に開かれていなかったかもしれない。それに対して、現在の合唱中心の活動は、対人関係の形成や仲間との学び合いが大切にされているが、自分の内なる声と向き合う機会が少ないような気がしないでもない。現代社会を大きな混乱に陥れた「コロナ・ショック」後の学校教育は、これまでに経験したことのない大きな転換期を迎えているに違いない。本年度から全面実施となった新しい学習指導要領のもとで、子どもたちが音楽の学習を通して自分の内なる声と向き合いながら外の社会とつながってほしいと願っている。

6 会員の声

中国四国地区例会を終えて

住田 新太郎（松山市立石井小学校）

2020年3月、初めてのオンラインによる中国四国地区例会が行われました。当初、私は修士論文の口頭発表を行う予定でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大によって、人との接触を避けることが求められるようになり、例会は Google ドライブ上において文章のやり取りをすることで開かれることとなりました。私にとっては入会後初めての発表だったので、特に戸惑いが大きかったかもしれません。しかし、そのような状況下であっても、他の方法で発表の場を与えていただいたことに感謝しております。

クラウドストレージを利用した地区例会は3月4日から10日間行われました。この期間内、発表と質疑応答に参加したことで気付いた点を三つ述べたいと思います。一つ目は、期間が長いため、自分の都合のよい時にオンライン上の資料を確認し、じっくりと質疑応答の内容を考えることができるということです。口頭発表の場合と比べると、時間の余裕があることは大きなメリットではないでしょうか。二つ目は、口頭発表がないため、資料だけで相手に自分の論を伝える必要性が高まったということです。そのため、多くの発表者は、論文の要旨を発表資料としていました。私はスライドを用いましたが、作成時には、従来のようにキーワード等の短文で作成するのではなく、補足説明を増やして詳細に述べる必要がありました。しかし、作成者の意図を参加者が理解できなかったとしても、リアルタイムの質疑応答で解決することは多いかと思います。三つ目は、全ての発表に関わる質疑応答を閲覧することができ、数多くの素晴らしい意見等から学ぶことができるということです。大学院生だった自分にとっては、多くの尊敬できる会員の方々の見解を拝見することで、他者の論への見方を養うことができました。このように、気付いた点について、オンラインによる地区例会の良さを中心に述べましたが、勿論口頭発表で実際に人と出会って議論することには、何ものにも代えがたい良さがあります。しかし、初の発表形式であったのにも関わらず、私も含め多くの人が、有意義な情報交換を行うことができたのではないかと思います。

3月の地区例会を終え、4月から愛媛県の小学校教員として勤務していますが、新型コロナウイルスにより、子どもたちがいつも通りの学校生活を送る日が遅れ、勤務して間もない私は、子どもたちに向き合い、授業を行うことができておりません。現在は初任者研修の一環として、教育現場で少しずつ音楽科を含めた模擬授業や授業準備を行っていますが、思う通りにはいかない毎日です。初任者の私には未だ余裕はありませんが、大学院2年間の研究を継続し、いずれは今回、地区例会で発表した修士論文「小学校音楽科と関わる STEAM 教育活動の可能性」の研究内容を生かした実践を行いたいと考えています。教員としても研究者としても未熟ですが、まずは日々の授業の中で子どもたちと精一杯向き合い、教育方法に関する技術を磨き、研究を実践できる土台を築いていきたいです。そして、学び続ける精神を忘れず、子どもたちの未来のために変わりゆく時代を見据えた教育を担っていけるよう、学会活動を続けて研究を進めていきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。こういった状況ですが、再び大会等に参加できる日を楽しみにしております。

7 会員の新刊・近刊等紹介

★齊藤 忠彦／菅 裕 編著『新版 中学校・高等学校教員養成課程 音楽科教育法』

教育芸術社 2019/11/25 B5判・256頁 ISBN：978-4-87788-845-9 [本体2,500円＋税]

新学習指導要領（平成29・30年告示）準拠の中学校・高等学校教員養成課程用音楽科指導法テキストである。人間と音楽の関わりなどの理論を大切にしつつ、新しい時代の音楽科教育を創造するためのヒントとなる情報を数多く紹介している。

★岩井 智宏 著『授業をもっとアクティブに！ 小学校音楽「常時活動」のアイデア100』（音楽科授業サポートBOOKS）

明治図書出版 2020/1/31 A5判・128頁 ISBN：978-4-18-292719-5 [本体2,000円＋税]

週に2時間という少ない時数の中で子どもたちが楽しみながら音楽的な資質・能力を積み重ねていきたい。そんな夢のような思いを実現できる可能性に満ち溢れた常時活動。常時活動の魅力や音楽授業の価値などに触れ、音楽室で生まれた5～10分で出来る具体的な100の常時活動を紹介。

★桂 直美 著『芸術に根ざす授業構成論—デューイの芸術哲学に基づく理論と実践—』

東信堂 2020/2/28 A5判・384頁 ISBN：978-4-7989-1624-8 [本体3,700円＋税]

デューイの芸術哲学を出発点として 20 世紀前半からの芸術教育論と授業実践の展開を追う。个性的でユニークな個の存在に根をおろすアートの経験を軸とすることで、今日の学校教育に標準的な授業構成と評価の枠組みからのパラダイムシフトを提唱する。

★須田 珠生 著『校歌の誕生』

人文書院 2020/3/25 四六判・222頁 ISBN：978-4-4095-2082-6 [本体4,000円＋税]

今日、多くの学校で制定され、うたわれている校歌。しかし実は、明治以来現在まで、校歌を作ることを定めた法規は存在しない。校歌という歌が学校にとっていかなる意味を持ち、学校、さらには地域社会のなかでどのような役割を果たしたのか。校歌の起源と展開に迫る。

★伊野 義博 著『キーワードで分かる！ 音楽科学習指導要領』

音楽之友社 2020/4/5 A5判・96頁 ISBN：978-4-276-32110-6 [本体1,600円＋税]

本書は、「日本一わかりやすい音楽科学習指導要領の説明」をミッションとして執筆された。その特徴は、24のキーワードを中心に解説していること、それを思考の窓口として新たな問いを生成しようとしていることにある。

この頁では、みなさまからの書籍、CD、DVDなどのリリースの情報をお待ちしています。基本的な書籍情報、音源情報に加えて、「である調」90字程度の紹介文をお願いします。

投稿先アドレス✉（半角で）onkyoiku@remus.dti.ne.jp

8 報告

1. 2020 年度 日本音楽教育学会 第1回常任理事会

日 時：2020 年4月 25 日（土）13:30～15:00

場 所：オンライン会議

出席者：今川、本多、木村、石上、小川、小畑、榎藤、齊藤、佐野、嶋田、杉江、水戸（記録）

理事会と重複する事項は割愛して報告・審議された。

【審議事項】

1. 第51回大会について（報告も含む）

(1) 大会実行委員会からの報告（大会実行委員会→木村）

京都大会の実行委員会より、以下の申し出があった。

- ・「京都大会」は、一旦延期とし、1年後（もしくは2年後）に改めて実施していただきたい。
- ・第51回大会が「誌上開催」「オンライン開催」など形態を変えて実施される場合、本実行委員会ではなく本部主導で開催いただきたい。

審議の結果、実行委員会の申し出を受け入れることとした。第51回京都大会の大会実行委員会は一旦解散し、大会は本部が単独で開催することとなった。また、大会の内容もコンパクトにし、研究発表、常任理事会企画、総会の3つをオンラインで開催とすることとした。大会の準備は、常任理事会の今川、本多、木村、石上、佐野が中核となって進め、ITなどのテクニカルな部分については、齊藤をリーダーとして対策チームを立ち上げることとなった。日程は変更しない予定。

(2) タイムスケジュールについて（石上・佐野）

現時点では、従来どおりのタイムスケジュールを作成している。しかし、オンライン開催に合わせたスケジュールを今後再検討していくことが確認された。さらに、1日開催とするか2日開催とするかについては、できるだけ早く決定する必要があることが確認された。

(3) プロジェクト研究について（石上・佐野）

現在、音楽づくり・創作の活動領域に焦点化したプロジェクト研究の企画を進めている。オンライン開催の場合においてもプロジェクト研究を従来通り実施することが提案され、承認された。

(4) 大会参加費等について（木村）

大会がオンラインの開催となったので、大会開催に必要な経費等を再検討し、改めて参加費を提案することとなった。臨時会員の参加を認めるかについても、今後検討していく。

2. 理事の被選挙権について（嶋田・齊藤）

会員の個人情報の扱い、各地区の事情等の問題もふまえ、審議の結果、総務担当で候補者要件を再検討した上で第2回常任理事会に再提案することとなった。

3. 電子投稿について（小川）

学会誌への論文の投稿を電子化することに関して、おおまかなシステム設定が完成したことが報告された。今年はトライアルとし、来年度から正式な運用開始を目指すことも併せて報告された。

4. ニュースレターについて（榎藤）

現在、電子化を検討中であることが報告された。

5. 編集委員投稿論文の採否決定のための臨時委員会について

『音楽教育学』の臨時査読委員より審査結果は「修正の上再査読」であることが提案され、承認された。なお、委員1名の理事任期の満了により新しい臨時査読委員1名を選出することになり、人選は臨時委員会に一任することが提案され、承認された。

《次回会議の予定》 第2回常任理事会 7月25日（土）13:30～15:00（予定）

.....

2. 2020 年度 日本音楽教育学会 第 1 回理事会

目 時：2020 年 4 月 25 日（土）15:00～17:00

場 所：オンライン会議

出席者：今川，本多，木村，石上，小川，小畑，榑藤，齊藤，佐野，嶋田，杉江，水戸，加藤，国府，
笹野（記録），新山王，津田，日吉，尾藤，村尾，中嶋

開会に先立ち今川会長より挨拶があった。また、木村事務局長より事務局の方々の紹介があった。

【会務報告】〈2020年2月24日以降〉

3月18日ニュースレター第79号発行

3月31日『音楽教育学』第49巻第2号発行

3月31日2019年度会計決算

4月18日 2019年度会計監査会（事務局）

4月25日2020年度第1回常任理事会・第1回理事会（web会議）

【審議事項】

1. 2019年度決算報告及び監査報告（島崎・寺田→木村・杉江）

資料に基づき 2019 年度会計報告があった。杉江前会計監事より、4 月 18 日の会計監査会において適正な会計処理が確認されたとの報告があり、承認された。

2. 2020 年度事業計画及び補正予算について (木村・杉江)

木村事務局長より 2020 年度事業計画案について、杉江会計担当理事より補正予算案について説明があった。第 51 回大会の開催方法によりさらに補正予算を組む可能性も含めて承認された。

3. 2021年度事業計画及び予算について（木村・杉江）

木村事務局長より 2021 年度事業計画案について、杉江会計担当理事より 2021 年度予算案について説明があり、承認された。

4. 第51回大会について（報告も含む）

(1) 大会実行委員会からの報告 (大会実行委員会→今川)

第51回大会実行委員会からの申し出（常任理事会の【審議事項】に掲載）を受け、今川会長より、今回は特例的な措置として、第51回京都大会の大会実行委員会は一旦解散し、責任主体を本部として常任理事会を中心に新たに実行委員会を立ち上げ、オンラインでの大会開催を実施することが提案され、承認された。

なお、令和3年度及び4年度の開催地については、京都教育大学（田中多佳子実行委員長）、令和3年度大会開催校候補の大学（関東地区）、および3役で調整する。

(2) タイムスケジュールについて（石上）

石上企画担当理事より、タイムスケジュール案について説明があり、京都大会を前提としていたものであったので、オンライン開催に向けて、再度検討を重ねていくことが提案され、承認された。

(3) プロジェクト研究について（佐野）

佐野企画担当理事より、プロジェクト研究の企画について進捗状況の説明があり、オンライン開催の場合においてもプロジェクト研究を従来通り実施することが提案され、承認された。

(4) 大会参加費等について（木村）

大会開催方法の変更に伴い、大会参加費について検討したい旨提案があり、承認された。

5. 第16回音楽教育ゼミナールについて（今田→木村）

12月に明治学院大学にて開催予定であることが説明され、承認された。

6. APSMER について（水戸）

来年度8月開催予定であったAPSMERについて、本多副会長（APSMER 実行員会会計担当）より、現在特別先行予約でおさえている大田区産業会館PIOに正式に予約するために準備金が必要であることが報告された。続いて水戸担当理事より、コロナウイルスの影響でオリンピックが1年延期されたため、8月に予定していた日程は変更せざるを得ないこと、それに伴い、日程、規模、場所等の代替案が示され議論された。審議の結果、オリンピック、パラリンピックの影響なども踏まえて、実行委員会で再度日程等検討のうえ再提案することとなった。

7. 学会賞について（今川）

今年は学会賞選考の年度ではないことが説明、確認された。

8. 育志賞の推薦について（今川）

日本学術振興会からの育志賞受賞候補者の推薦について、報告と依頼がなされた。

9. 理事の被選挙権について（嶋田・齊藤）

常任理事会での議論を踏まえて再検討し、7月の常任理事会に再提案されることが了承された。

10. 電子投稿について（小川）

小川編集担当理事より、学会誌について電子投稿のシステム構築が検討されており、今年1年間は試行的な期間となること、来年度より本格実施の見通しであることが提案され、承認された。

11. ニュースレターについて（権藤）

第80号（5月発行）の計画が報告された。また、今後デジタル化の方向も視野にいれた検討を行うこと、「会員の声」執筆者について各地区より（北から）推薦することが提案され、承認された。

12. 新入会員及び退会者について（木村）

木村事務局長より、2020年2月23日以降の新入会員及び退会者、また、2020年5月末に2年未納だった場合、2019年度で自然退会者となる会員について報告され、承認された。

（2020年4月20日現在 正会員1,557名 学生会員3名 名誉会員2名 特別会員3名）

◆正会員 申出退会 38名

◆正会員 新入会 19名（次頁）

個人情報保護のため削除しました

13. 2020・2021年度委員について（今川）

学会賞審査委員として、今川会長、水戸前編集委員長、小川編集委員長の他、北山・榎藤・杉江・本多の各会員の7名、音楽文献目録委員として、三枝・長野・福田委員（継続）、大田会員（新）の4名に委嘱することを含め、2020・2021年度の各委員が承認された。

14. 2020年度日本音楽教育学会参事の委嘱について（木村）

金崎会員（J-STAGE）、高橋・千葉会員（国際交流）へ委嘱することが承認された。

【報告事項】

1. 各委員会等報告

(1) 編集委員会（小畑・小川）

2月23日、2019年度第4回編集委員会が聖心女子大学で開催された。また、4月25日、2020年度第1回編集委員会がオンライン会議で開催された。上記2つの編集委員会で審議された投稿の採否等について報告があった。なお、4月26日現在の投稿状況は、『音楽教育学』6本、『音楽教育実践ジャーナル』15本である。編集委員の投稿論文について、理事会から2名、外部査読2名で査読した結果、修正再査読となった。修正再査読の体制については、別途検討することとなった。

(2) 選挙管理委員会（高木→木村）

委員長に高木委員、副委員長に山本委員が決定した。

(3) 音楽文献目録委員会（長野→木村）

代表は長野委員に決定した。

2. 例会報告（小畑・榎藤・齊藤・笹野・日吉・尾藤・国府・中嶋）

各地区から2019年度例会の報告、近畿地区からは2020年度第1回例会開催予定が報告された。

3. 設立50周年記念出版について（佐野）

50周年記念出版について刊行の報告がされ、感謝の意が示された。

4. 事務局より（木村）

新型コロナウイルスの影響で事務局が原則在宅勤務となっていることなどについて報告があった。

〈次回会議の予定〉第2回理事会 10月16日（金）（予定）

9 事務局より

事務局長 木村 充子

1. 第51回大会事前申込について

京都教育大学で開催予定であった第51回大会は、現地での開催を取り止め、規模を縮小してインターネット・ツールを用いたオンライン開催として実施することとしました。詳細は学会 HP および大会 web サイト <https://sec.tobutoptours.co.jp/web/evt/51ongaku/> にてご確認ください。

研究発表申込および要旨登録〆切：2020年6月15日（月）15時

※〆切が6月10日から6月15日に変更になりました。

大会参加事前申込〆切：2020年10月3日（土）15時／参加費：¥2,500

※事前申込のみとなります。当日参加は受け付けませんのでご注意ください。

2. 年度会費納入のお願い

会費の期限内納入にご協力ください。会費未納の場合、大会での発表、送付物、論文投稿などに支障が発生します。2年間会費を滞納すると自然退会になります。会費納入後、約2週間で事務局より年会費振込の確認メールが自動送信されます。メールが届かない場合は事務局までご連絡ください。

3. 会員情報（所属先・住所など）の変更について

会員情報の変更は事務局では受け付けておりません。学会 HP「会員個人専用ページ」からご自身で変更していただきますようお願いいたします。

4. 事務局について

現在、亀山さん、若尾さん、宇田川さん、徳山さんの4名が事務局業務を担ってくださっています。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。なお、新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、事務局開局の状況が不規則となることがありますので、お急ぎの用件はEメールにてお願いいたします。ただし、お返事までに数日かかることがありますので、ご了承ください。

..... 【編集後記】

人が集い、手をつなぎ合い、共に歌う、そんな日常が当たり前ではなくなっている現在、改めて、会員の皆様に確かな情報をお届けし、会員相互をつなぎ、というニュースレターの使命を再確認しています。音楽の底力に支えられつつ、菅、権藤、塚原、早川、村上の5名で皆様の活動のお役に立てよう2年間精一杯取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。（権藤 敦子）

投稿先アドレス（半角で） onkyoiku@remus.dti.ne.jp

..... 【日本音楽教育学会事務局】

所在地：〒184-0004 東京都小金井市本町 5-38-10-206

Tel. & Fax. : 042-381-3562

E-mail : (半角) onkyoiku@remus.dti.ne.jp

私 書 箱 : 〒184-8799 東京都小金井郵便局私書箱 26 *郵便物は私書箱へ

開局日時：月・水・木 9:00 ～ 15:00 事務局員：亀山・若尾・宇田川・徳山

※新型コロナウイルスの影響拡大に鑑み、事務局開局の状況が不規則となることがあります。